



言語障害教育		単位数	履修方法	配当年次
		2	R	3年以上
科目コード	EG4736	担当教員	大西 孝志	

※2019年3月までに単位修得してください（新規履修登録不可）。

※2014年度までの入学者と、2015年度2・3年次編入学者・科目等履修生、2016年度4月生3年次編入学者のみが学習可能です。

※この科目は単位修得年度によって、科目名が異なります。

2014年度までに単位修得した場合→「コミュニケーション障害教育」

2015年度以降に単位修得した場合→「言語障害教育」

※2014年版の『レポート課題集』や2014・2015年度の募集要項で、この科目の主たる領域が重複・LD等（言語）になる案内をいたしました。が、主たる領域：重複・LD等（重複・言語・情緒・LD・ADHD） 含まれる領域：聴覚障害者 で変更はありません。

■科目の内容

言語障害をともなう障害は多岐にわたります。その中で、当科目においては自閉症、知的障害、特異的言語発達障害、脳性まひ・重症心身障害、難聴、構音障害、学習障害、それぞれの障害の理解と適切な対応の仕方、そして言語能力を促進する指導方法について学びます。また、聴覚障害について、心理、生理・病理、指導法、教育課程について学びます。

特別支援教育において、言語障害を抱える障害児・者が、言語障害を克服あるいは改善して、生活の質を高められるような支援を展開するにはどうしたらよいのか、自分で考えて実践する力を養ってほしいと思います。

■到達目標

- 1) 言語のメカニズムについて、解剖学的側面と心理的側面から説明できる。
- 2) 様々な言語障害を説明できる。
- 3) 各言語障害に対応した支援方法を説明できる。

■教科書

- 1) 西村辨作編『ことばの障害入門』大修館書店、2001年
- 2) 中野善達・根本匡文編著『聴覚障害教育の基本と実際（改訂版）』田研出版、2014年（最近の教科書変更時期）2014年4月より教科書2）が4刷に変わりました。

■科目評価基準

レポート評価25%+科目修了試験75%

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	言語発達障害総論 (教科書1) 第1章)	言語発達障害全般の概要を知る。 キーワード：ことばの発達、ことばの遅れ、言語発達障害	ことばの発達の3条件やさまざまな言語発達障害について整理して考えてみましょう。
2	自閉症と広汎性発達障害 (教科書1) 第2章)	自閉症と広汎性発達障害について知る。 キーワード：自閉症、広汎性発達障害	共同注意や他者理解の発達との関連について考えてみましょう。
3	高機能自閉症とアスペルガー症候群 (教科書1) 第3章)	高機能自閉症とアスペルガー症候群について知る。 キーワード：高機能自閉症、アスペルガー症候群	語用論とはどういうものか、高機能自閉症やアスペルガー症候群の子どもは語用論においてどのような困難さを示すのか、考えてみましょう。
4	知的障害 (教科書1) 第4章)	知的障害について知る。 キーワード：知的障害	知的障害の言語発達の5つの側面(教科書1) p.85)について整理して考えてみましょう。
5	特異的言語発達障害 (教科書1) 第5章)	特異的言語発達障害について知る。 キーワード：特異的言語発達障害	特異的言語発達障害の特徴について整理してきましょう。
6	脳性まひ・重症心身障害 (教科書1) 第6章)	脳性まひ・重症心身障害について知る。 キーワード：脳性まひ・重症心身障害	脳性まひや重症心身障害児の言語発達の特徴について整理してきましょう。
7	難聴 (教科書1) 第7章)	難聴について知る。 キーワード：難聴	難聴幼児への支援において何が大切か考えてみましょう。
8	構音障害 (教科書1) 第8章)	構音障害について知る。 キーワード：構音障害	さまざまな構音障害の原因と特徴について整理してきましょう。
9	学習障害 (教科書1) 第9章)	学習障害について知る。 キーワード：学習障害	学習障害と特異的言語発達障害の類似点と相違点について整理してきましょう。
10	聴覚障害教育の歴史 (教科書2) 第1章)	我が国の聴覚障害教育の歴史について知る。 キーワード：盲啞学校、聾啞学校令、聴覚口話	我が国では明治時代より聴覚障害児教育が行われていました。教育方法の歴史の変遷について整理してきましょう。
11	コミュニケーションの方法 (教科書2) 第2章)	聴覚障害児のコミュニケーション方法について知る。 キーワード：言語指導、手話	聴覚障害児の教育においてどのようなコミュニケーション手段が用いられているのか整理してきましょう。
12	早期発見と両親援助 (教科書2) 第4章)	聴覚障害の早期発見と早期支援について知る。 キーワード：新生児聴覚スクリーニング検査、保護者の不安	聴覚障害児への支援では早期発見・早期支援が重要です。保護者への支援も含めて考えてみましょう。
13	幼児教育 教科書2) 第5章)	聴覚障害特別支援学校幼稚部の教育内容・方法について知る。 キーワード：幼稚部	幼稚部段階では特に家庭の協力を得ながら教育を進めていくことを理解しましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
14	中等教育 (教科書2)第6章)	聴覚障害特別支援学校小学部、中学部、高等部の教育内容・方法について知る。 キーワード：小学部、中学部、高等部	聴覚障害特別支援学校における総合的な学習の時間や自立活動の時間の意義について考えましょう。
15	高等教育 (教科書2)第7章)	聴覚障害者の高等教育の現状について知る。 キーワード：高等教育	聴覚障害者に対する高等教育ではどのような支援が求められるのか考えましょう。

■レポート課題

1 単位め	教科書「ことばの障害入門」の全体を読んだ上で、次の課題1・2の両方について解答してください。 課題1 第6章を熟読して、「脳性まひ・重症心身障害」における言語障害の特徴をまとめてください。 課題2 第9章を熟読して、「学習障害」における言語の問題をまとめてください。
2 単位め	教科書「聴覚障害教育の基本と実際」の全体を読んだ上で、次の課題1・2の両方について解答してください。 課題1 第2章を熟読して、「聴覚障害と言語コミュニケーション」「言語指導の方法」「手話と日本語」「コミュニケーション手段」についてまとめてください。 課題2 第5章を熟読して、聴覚障害特別支援学校の幼稚部、小学部、中学部、高等部・専攻科それぞれにおける教育の内容と方法について、まとめてください。

■アドバイス

レポート課題の該当箇所だけではなく、必ず教科書全体を読んでください。各章は他の章と相互に関連していますし、科目修了試験においては他の章も出題範囲となります。また、必要に応じて参考図書も読むことをお勧めします。参考図書1)は教科書1)と類似した内容となっており、両方を併せて読むことにより、より理解が深まることと思います。障害児へ言語の指導にあたる際には、まず、健常児の言語発達についてよく理解しておく必要があります。そのためには、参考図書2)が参考となります。具体的に言語障害を評価したり、指導法を考えたりする際には参考図書3)が参考となるでしょう。さらに、言語発達や言語障害に関する他の文献を各自探して読んでみることを勧めます。脳科学や神経心理学・認知心理学の視点から言語発達や障害について書かれてある文献も興味深いと思います。また、言語獲得段階にある乳幼児や、言語障害のある障害児・者と接する機会のある人は、ぜひ積極的にかかわってください。きっと多くのことを学び、感じることでしょう。

なお、レポートを作成するにあたり、指定の教科書や参考図書以外にも参考にした文献がある場合は、レポートの最後にその文献の書名、著者名、出版社、出版年を忘れずに書いてください(指定の教科書や参考図書から引用・要約した場合はそちらも記載してください)。教科書やその他の文献の文章をそのままレポートに転記することは避け、自分のことばを用い、自分なりの表現に直して書いてください。やむを得ず原文のまま引用する際には、引用箇所をかぎ括弧で括るとともに、その直後に括弧で著者名や引用文献を明記して、必ずその箇所が引用文であることがわかるようにしてください。

課題1 「脳性まひ・重症心身障害」

脳性まひ児の言語発達障害要因にはどのようなものがあるか、また、言語発達障害の諸症状にはどのようなものがあるかまとめてみましょう。また、摂食機能と口腔運動機能の関連についても、まとめてください。

課題2 「学習障害」

学習障害の概念をまとめた上で、学習障害児の言語の問題を整理してみましょう。

また、課題には取り上げていませんが、次の各障害についても、以下のポイントを押さえて、よく理解しておいてください。

(1) 知的障害

知的障害児は言語の発達が遅れる傾向にあります。知的障害により、言語発達の基盤となる認知発達、特に象徴機能の発達が遅れるためと考えられます。また、言語発達の遅れは語彙の問題だけではなく、構音や統語の問題としても現れます。

(2) 自閉症

自閉症は、ことばの発達に遅れがあるだけではなく、獲得した言語をコミュニケーション手段として有効に活用できない、他者の心の理解が困難である、という質的な障害をもっています。また、言語コミュニケーションだけではなく非言語コミュニケーションにおいても、表出が少ない、理解ができないなどの問題があります。ですから、自閉症のコミュニケーション障害は表出される音声言語の問題だけではない点を理解してください。

(3) 難聴

難聴児がことばを獲得する際、どのような問題が生じるのか、また、難聴児のことばの獲得を促進するにはどのような点に気をつけたらよいのかを考えながらまとめておきましょう。言語の発達を促す上で、乳幼児期に難聴を早期発見し、早期指導することは重要なことです。また、難聴の程度が重度である場合には、聴覚活用と口話法だけではなく、手話も重要なコミュニケーション手段として使用する必要があります。

(4) 構音障害

構音障害には、機能性構音障害、器質性構音障害、運動性構音障害があります。それぞれの構音障害の特徴についてまとめておきましょう。

課題1 次のポイントをふまえてレポートをまとめましょう。**(1) 「聴覚障害と言語コミュニケーション」**

まず、聴覚機構と障害について理解してください。そして、聴覚障害児の言葉の獲得にはどのような特徴があるかまとめてください。

(2) 「言語指導の方法」

構成法的アプローチと自然法的アプローチの違いと、それぞれの特徴についてまとめてください。

(3) 「手話と日本語」

手話には、日本語対应手話、日本手話、中間型手話の3種類があります。それぞれの特徴、および指文字についてまとめてください。

(4) 「コミュニケーション手段」

聴覚障害教育におけるコミュニケーション指導の方法として、聴覚口話法、トータルコミュニケーション、二言語二文化教育があります。それぞれの特徴についてまとめてください。また、自立活動や教科指導における言語指導についてもまとめてください。

課題2

特別支援学校（聴覚障害）の各学部における教育では、それぞれ発達段階や障害の特性に応じた工夫が施されています。その特徴の要点を整理してまとめてください。

■科目修了試験 評価基準

内容理解・説明ができていようかが評価の前提となるが、いずれの問題も教科書を基に出題しているので、教科書全体の内容を理解しているかどうか、評価のポイントとなる。十分に教科書を熟読した上で試験に臨むこと。試験においては解答者自身の経験に基づく個人的な意見や感想を求めているのではないので注意すること。

■参考図書

- 1) 笹沼澄子監修『子どものコミュニケーション障害』大修館書店、1998年
- 2) 秦野悦子編『ことばの発達入門』大修館書店、2001年
- 3) 大石敬子編『ことばの障害の評価と指導』大修館書店、2001年

2009年3月告示の「特別支援学校 学習指導要領」「特別支援学校 学習指導要領 解説」（文部科学省ホームページなど）も参照してください。